

2019年度 第2回日本語教育研修会実施報告

国際交流基金関西国際センター

川嶋恵子

1. 実施場所・日時

高雄会場：2019年12月7日（土）13：30～17：00

義守大学推廣教育中心

台北会場：2019年12月8日（日）13：30～17：00

PCBC, 6樓A會議室

2. テーマ

「ポップカルチャーを使った教室活動」

3. 概要

(1) 日本語学習者とポップカルチャー

私たち教師が日々感じているように、多くの日本語学習者はポップカルチャーが大好きで、海外日本語教育機関調査（国際交流基金、2015年）の結果からもそれが大きな学習目的になっていることがわかります。また、私が勤務している国際交流基金関西国際センターには毎年500人余りの研修参加者が日本語や日本の文化、社会を学びにやってきますが、世界の遠く離れたところにいる人同士が同じマンガ作品のファンでその思いを共有していること、好きが高じて日本研究のテーマにまで発展させている人が何人もいます。こういった事例を通じて、日本語学習者とポップカルチャーの関係についてお話ししました。

(2) 教室活動にどう取り入れる？ポップカルチャーを使った教室活動の紹介

教師よりも圧倒的にポップカルチャーについての知識の多い学習者に対して、どのような教室活動を行えばよいのか、具体的な教材例や活動例を「ポップカルチャーで日本語を教える（一般的な日本語授業の導入や練習を作品の世界観の中で行ったり、道具としてポップカルチャーの要素を使ったりするなど）」と「ポップカルチャーの日本語を教える（ポップカルチャーの中にみられる特有の日本語表現を、日本語のバリエーションの一つとして紹介する）」という2種類の視点で整理して示しました。

(3) グループワーク：教室活動を考えよう

教室活動の目標設定をする際のレベル感をJF Can-doを使って紹介し、さらに、オンラインで入手可能な素材の例を示した後、3～4人のグループに分かれて教室活動案を考えていただき、最後に全体でアイデアを共有しました。

4. 所感

普段接している学習者の多くがポップカルチャー好きで、それを授業に取り入れたいと思っているものの、実際にどうしたらいいのか、そもそも、自分自身はポップカルチャーに詳しいわけでもないし・・・といったお悩みをお持ちの先生方が今回の研修会に参加してくださったようでした。日本語の授業にポップカルチャーを使うと言っても、学校で決められた教科書やカリキュラムがある中で、大きく内容を変えることは難しいと思いましたので、いろいろな制約がある中でも、教室活動の一つとして

取り入れやすいアイデアをご紹介したい、という思いでお話しさせていただきました。

教室活動案を考えるグループワークでは、普段の授業の起爆剤としてアニメを使う案や、人気のあるキャラクターになりきった会話練習、台湾と日本の文化比較、オノマトペの意味理解など、多様なアイデアが出されましたが、そのどれもが、すぐにでも授業で実践できそうなものでした。今回は、「ポップカルチャー」という広い範囲でいろいろな活動を考えていただきましたが、学習者が違えば、興味の対象もそれぞれに違うものだと思います。今回の研修会の内容をヒントにして、ポップカルチャーが大好きな学習者に対して、その「好き」という気持ちを最大限に利用できる楽しい活動を考え、実践していただけたらうれしいです。

5. 参加者の反応（アンケートからの声）

- ・本日のテーマは授業の活動にすごく役に立つと思います。いろいろなアイデアが浮かんできます。ポップカルチャーを教室活動に取り入れるヒントをたくさん得ました。ありがとうございました。
- ・今の学生たちによって、たくさんの文型を覚えさせるのはちょっと難しいことです。教科書の内容よりもアニメから日本語の勉強を導入する方が若者に対して効果があるかもしれません。
- ・台湾の日本語学習者は最初の学習動機がポップカルチャーであることが多いが、教室活動ではその内発的な動機が生かされていないように感じるが多かった。今回の研修会ではこの点について具体例をもとにお話されていて大変刺激になった。今後の授業の参考にしようと思う。ワークショップもよかった。
- ・苦手な分野のテーマだが、刺激を受け、今後に生かせると思う。

6. 会場の様子

- ・台北会場



高雄会場

